



ミャンマー災害危険地域における防災能力向上支援プロジェクトのファイナルワークショップ

The Final Workshop in the Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction in Disaster Risk Areas in Myanmar

Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこのSEEDSのロゴをかざすと簡単に寄付ができます。】

Table of Contents Vol.51 (Mar, Apr 2016)

- ・熊本地震被災者支援
 - ・丹波市：丹波市町づくり共同事業
 - ・ Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh
 - ・東北：東日本大震災被災者支援事業
 - ・ミャンマー：災害危険地域における防災能力向上支援
USAID の能力強化支援プロジェクト
 - ・インド：参加型コミュニティ防災推進事業
 - ・フィリピン：セブ州における防災教育の技術移転事業
 - ・ネパール：地震支援 & 村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト
 - ・本部からのお知らせ
-
- ・ Support for people affected by Kumamoto Earthquake
 - ・ Tanba City: Joint Project with Tanba City for Community Development
 - ・ Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh
 - ・ Project on Support for people affected by Great East Japan Earthquake & Tsunami
 - ・ Myanmar: Project on Capacity Building for DRR
Project on Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management
 - ・ India: Project on Participatory Community-Based DRM
 - ・ Philippines: Project on DRR Education with school- community linkage in Cebu
 - ・ Nepal: Support for people affected by Nepal Earthquake
Project on Capacity Building of DRM for Village Development Committees
 - ・ Announcements from SEEDS Asia



(特定非営利活動法人 SEEDS Asia)

〒658-0072

3-11-30-302 Okamoto,
Higashi Nada ku, Kobe, Japan
神戸市東灘区岡本3-11-30-302

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>

緊急告知：熊本地震被災者支援

丹波市：丹波市まちづくり協働事業

【ジャパン・プラットフォーム】

熊本地震被災者支援事業開始のお知らせ

2016年4月14日および16日に熊本県において立て続けに震度7の地震が発生しました。被災された方々にお見舞い申し上げます。

SEEDS Asia では、5月16日から21日に現地調査を実施し、熊本県内でも震度4以上の余震が多く続いているにも関わらず、外部支援がほとんど入っていない宇城市において支援を行うことで、同市危機管理課および社会福祉協議会と合意を得ました。地震から1カ月、被災地では、県外からのボランティアの受け入れが開始したり、避難所が統合したり、学校が再開したりと、被災された方々の取り巻く環境が刻々と変化しています。こうした中で、宇城市社会福祉協議会は、これまで開設していた災害ボランティアセンターを6月に復興支援センターに変更してより多様な被災者ニーズに対応できるようにします。その活動に対して、これまで気仙沼にてコミュニティ復興の支援活動を実施してきたノウハウと、気仙沼の団体とのネットワークを活かし、SEEDS Asia が支援を行います。

被災地の仮設住宅建設もこれからであり、今後、長期的な支援が必要です。皆様の温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

【ご寄付のお願い】

SEEDS Asia は、以下のCANPAN 決済サイトにて「熊本地震被災者支援専用寄付」を受け付けています。皆様方の温かいご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

<https://kessai.canpan.info/org/seedsasia/donation/101408/>



南阿蘇村の被害。住宅の多くは1階部分が潰れ、山腹では土砂災害も発生した



宇城市災害ボランティアセンターで道路の通行可否を確認

【丹波市まちづくり協働事業 /CWS Japan (UMCOR)】

丹波市復興まちづくり協働事業の開始

2016年4月12日、丹波市復興まちづくり協働事業の協定書調印式が行われ、同市と今後2年間の、学校と地域との連携による体験型の防災教育の推進に関する協定書を締結しました。

きっかけは、2015年7月にフィリピン・セブプロジェクトで実施した本邦研修で、丹波市を訪問したことでした。本邦研修では、2014年の集中豪雨に被災した同市の被害と復興への取組を紹介するために行ったものですが、その視察後、今後の復興のための協働事業ができないか、丹波市と協議を重ね、本事業の協定締結に至りました。

この事業は、丹波市において、将来にわたって学校と地域の連携による防災教育を持続的に推進できるよう、推進体制を構築し、被災地域での先行モデルづくりを行うとともに、その経験を全市的に展開できるよう教材づくりやシステムづくりを行うことを目的に実施するものです。今後、本事業に対するご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



調印式で協定書を締結した企業とともに市長と握手を交わす SEEDS スタッフ

第1回防災指定校連絡会議の開催

2016年4月27日、丹波市教育委員会、防災指定校の4校の代表者とSEEDS Asia が集まり、第1回防災指定校連絡会議を開催しました。防災指定校とは、丹波市が本年度、防災教育の研究・実践を行う学校として指定したもので、2014年の集中豪雨で被災した地区に位置する小学校2校および中学校2校が指定されました。防災指定校連絡会議は、お互いの学校での研究・実践の方向性や成果を共有し、学びの機会とするために開催するものです。

第1回目当たる今回の会議では、事業の全体像や今後の方針について協議しました。学校により地域との連携に関する事情が異なることが把握され、次回の会議では、防災教育の実施に当たって、それぞれの学校に合った地域との協働体制について協議することとなりました。



【JICA 草の根事業協力：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

コミュニティ防災力向上事業いよいよ始動！

2016年4月24日、現地での事業開始に際し、北ダッカ市にある Nascent Gardenia というホテルにてキックオフワークショップを開催しました。アジア有数のメガシティであるダッカでは、地震や豪雨による都市型災害のリスクが高まっています。北ダッカ市をカウンターパートとした本事業では、都市部においてコミュニティレベルでの防災力を向上させることを目的としています。キックオフワークショップでは、市や区の職員、大学、消防、NGO の関係者が一堂に会し、コミュニティ防災の重要性を確認しました。また、SEEDS Asia の他地域での活動や、日本やインドにおけるコミュニティ活動の成功事例を参加者と共有しました。本事業では、さまざまなステークホルダーを巻き込んで活動をしていきます。各方面から多くの方々に参加いただき、よいスタートを切ることができました。



キックオフワークショップの様子

Armanitola Government High School 防災クラブ訪問

ダッカ市の南に位置する Armanitola Government High School では、2年前 SEEDS Asia の支援で、Earth Club という生徒による防災クラブが創設されました。SEEDS Asia が学校を去った後も、生徒たちは自ら新しいメンバーを募り避難訓練等の活動を続けてきたそうです。4月27日、Earth Club 発足から2年となる記念日に生徒たちを訪ねてきました。また、この日には避難訓練も行われ、その様子を見ることもできました。Earth Club の生徒たちが自分たちの活動を誇りに思い、自信をつけている点が印象的でした。今回のコミュニティ防災事業でも持続性が重要になります。Armanitola の生徒による防災クラブは大変よい成功例と言えます。



Earth Club のメンバーと記念撮影



【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

気仙沼市立階上中学校での親子防災教室

2016年4月16日、気仙沼市立階上中学校で親子防災教室が開かれ、SEEDS Asia は講師として参加しました。

これは3月に行われた階上地区防災教育推進委員会において、学校の防災活動にPTAの参加を促す必要性について訴えたところ、「丁度4月にPTA総会があるのでそれに合わせて実施しよう」と、急遽決まったものでした。親子防災教室の2日前には熊本で震度7の地震があり、16日の当日には再び熊本で大きな本震があったため、世の中は地震の話で溢れかえっていたところでした。「防災教室の重要さが思い起こされますね。」と校長が東日本大震災時の思い出話の中で言いました。さらに今年度から着任した教頭は実家が熊本だそうで、本当は直ぐにでも駆け付けたい筈ですが、冷静につとめながら私を会場まで案内してくださいました。

会場の体育館には既に生徒が並んでいました。2年前に小学校で防災マップを作った生徒や防災キャンプで一緒だった子、愛媛県西条市に防災キャンプの視察のために連れて行った子など知った顔が大勢居ました。

熊本で大災害が起きた直後です。皆真剣な表情でした。周りには生徒を囲むようにPTAも集まっています。

「ESD(持続可能な開発のための教育)って知っていますか?」。講演は質問から始まりました。生徒もPTAも答えられません。学校や教育委員会が大切に思っていることがPTAに伝えることが課題だと良く分かります。そこで、動画「気仙沼市におけるESD/防災教育の革新」を上映しました。PTAに見てもらう事で子どもたちがどんな環境の中で生きる事を考え学んでいるのか知って欲しかったからです。

自分たちの故郷や知人の映像が多く使われているため、上映中は歓声や笑聲があがります。地域の中で生き生きと学ぶ子どもたちの姿にPTAの方々も大切な何かを感じてもらえたようでした。

「大きな木も毎日同じ方向の風に吹かれていけば目には見えなくても少しずつ傾いていきます。大災害が起こった時にどちらに傾くか?助かるための風は皆で作り出さなければならない。皆が生き残ることができるまちをつくりましょう。」そう締めくくった講演が、階上中学校区の新しい防災の一步に繋がってほしいと思います。



階上中学校での講演での動画上映の様子



【JICA 草の根技術協力事業：災害危険地域における防災能力向上支援プロジェクト】

事業の完了報告と JICA 関西での報告会のお知らせ

2016年3月末を以て、JICA 草の根技術協力事業「災害危険地域に於ける防災能力向上支援プロジェクト」が無事に終了いたしましたのでご報告申し上げます。本プロジェクトにあたり、ご協力頂きました皆様に、深く感謝申し上げますと共に、プロジェクトの終了にあたり、下記の通り公開報告会を致しますので、ご案内を申し上げます。

日時：5月30日（月）18：30-20：00（18：00 受付開始）

場所：JICA 関西 2階 プリーフィングルーム

申込方法：メールあるいはお電話で、①お名前・②電話番号・③メールアドレスを以下までご連絡ください。

jicaksic-kusanone@jica.go.jp

078-261-0384（JICA 関西 市民参加協力課／松浦・白井・熊谷）

*いただいた個人情報は、本報告会に関する連絡にのみ使用いたします。

参加費：無料



事業のファイナルワークショップにて

【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

テクニカル・アドバイザー・グループ及び共同コンソーシアムメンバーとの会議（第一回）

国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化共同プロジェクトのテクニカル・アドバイザー・グループ（関係省庁や大学機関などを含めた17組織で構成されるもの）との初会議が、2016年3月8日、ネピドーにある社会福祉救済復興省・復興救済局（RRD）事務所で開催され、SEEDS Asia は共同コンソーシアムの一団体として参加しました。主な議題は同グループに対し、これまでに行われたプロジェクト内の活動報告で、SEEDS Asia はこれまでに実施した活動として、アクション・リサーチの紹介や、「トレーニング・リサーチ・アクション ワークショップ」開催の報告、SEEDS Asia が寄贈した52冊に及ぶ防災に関する技術文献及び232冊の推奨文献、大学並びに技術機関との連携に対する調整会議、ヤンゴン工科大学並びにダゴン大学に調査目的として提供した奨学金供与などについて報告しました。アドバイザー・グループの一員であるヤンゴン工科大学のキンタンユ副学長が防災に関する政策提言や活動計画につながる本調査活動に対し肯定的なコメントを述べ、関係機関との連携の重要性と研究と実践の相乗効果について強調しました。

(※ 共同コンソーシアムメンバー：UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED 他)

技術協力団体：UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA 他)



社会福祉救済復興省・復興救済局での会議

社会福祉救済復興省復興救済局と共同コンソーシアムメンバーとの協議会

4月7日に社会福祉救済復興省復興救済局と共同コンソーシアムメンバーとの協議会がネピドーで開催されました。SEEDS Asia は計画通り活動を進めることで同意が得られ、SEEDS Asia が担当するCCRI(湾岸地域コミュニティの災害回復力調査)/CDRI(気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ)調査などに関する継続的な情報共有の重要性を相互で再確認しました。



社会福祉救済復興省・復興救済局との協議の様子

Coastal Community Resilience Index (CCRI) の現地調査が終了

CCRI(湾岸地域コミュニティの災害回復力調査)に関する現地調査が4月上旬に終了し、同時に調査で得られたデータの分析が開始されました。現地調査はエーヤワディー地区の26区を対象とし、ヤンゴン工科大学博士課程の学生であるエーエーカイン、社会福祉救済復興省・復興救済局の職員及びSEEDS Asia ミャンマー事務所の調整員を含めた調査グループで結成されています。CCRIは政府機関の各省庁、自治体、コミュニティ等に対する質問票を用いたインタビューとフォーカル・グループ・ディスカッションで構成され、湾岸エリアの災害レジリエンスを図るための5分野：①社会経済、②インフラ、③制度やガバナンス、④湾岸エリア管理、⑤自然環境を軸として125項目のデータを収集しています。



パテイン区でのCDRI 調査の様子

ダゴン大学地理学部に対する防災に関する技術文献の寄贈

3月31日、SEEDS Asia 理事長を務めるショウ ラジブよりダゴン大学地理学部に対し防災に関する64冊の技術文献が寄贈されました。

主にCDRI(気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ)調査に関する効果的な理解の促進を目的とし、技術文献はミャンマーオフィスを通じてダゴン大学地理学部学部長キンキンウェイ教授に手渡されました。SEEDS Asia との連携の下、CDRI 調査がパテイン市にて今年の5月上旬に実施される予定であり、調査員はダゴン大学地理学部の教授並びに大学院生で構成される予定となっています。



ダゴン大学地理学部学部長キンキンウェイ教授他教員との集合写真

この取り組みは、子供たちに防災に関する記事や絵などを作成してもらい、集められた作品の中から優秀なものを定期的、また継続的に新聞に掲載してもらうことで、子どもたちをはじめ、バラナシ市全ての住民に防災意識を高めようというものです。

記者たちにもこの取り組みに関して大変興味を持ってもらうことができ、今後、これらの事業活動に協力してもらうことが合意されました。



メディアセッションにて

防災・環境教育研修

4月16日の午後と17日に、パナラス・ヒンドゥー大学で、防災・環境教育研修を開催しました。研修にはクライメイトスクール5校の先生方やその周辺校の先生方、コミュニティグループの代表など、防災環境教育・活動を中心となって実施していく主要メンバーが参加しました。この研修の目的は、これらの参加者たちが実際に学校や地域で防災環境教育・活動を実施していくことができるように育てることです。

第一回目の今回の研修では、防災に関する基礎知識、バラナシ市の災害状況、またアジアでの防災教育の様子等を紹介するとともに、参加者たちにも、自分たちの学校や地域で現在行っている防災に対する取り組みなどを考えてもらい、どうすればより災害に強い学校・地域をつくれるのかを1年後、3年後に向けて具体的な目標・計画を立ててもらいました。

今まで防災についてあまり考えることのなかった参加者たちにとって、自分たちの地域の防災力向上について真剣に考え、そして話し合う良い機会となりました。

今後、この計画表を基に防災環境教育・活動を共に行っていきます。



【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

地元メディアとの事業内容共有

4月16日(午前)、パナラス・ヒンドゥー大学にて、地元新聞社(計7社)とのメディアセッションを開催しました。

このセッションでは、記者たちに事業内容や現在の活動状況についての発表を行うとともに、今後取り組む予定である「子どもたちによる防災記事の新聞掲載」活動の説明・提案を行いました。



防災計画を立てる先生達



フィリピン (セブ)

【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業】

防災教育推進校の選定

SEEDS Asia セブプロジェクトは防災教育モデル校における人材育成と防災教育の実践がひと段落し、次なるステップである防災教育推進校を選定する段階を迎えました。

2016年3月2日、防災教育推進校ミーティングを教育省第7地方事務所にて開催しました。ミーティングには教育省第7地方事務所長、推進校選定予定のセブ州内の7つ地区から各々の教育省地区事務所の教育長と、各市の防災管理室担当が参加し、SEEDS Asia の団体概要やセブプロジェクトの概要、防災教育の重要性、各ステイクホルダーの役割、また防災教育推進校選定時における基準についての説明を行い、SEEDS Asia の防災教育活動に対する共通の理解と認識を共有しました。そして4月には7地区全てにおいて防災教育推進校が決定しました。

都市名(五十音順)	推進校名
カルカル市	カルカル市中央小学校
セブ市	セブ市国立小学校
タリサイ市	タンケ小学校
トレド市	タラベラ小学校
ナガ市	バリロン小学校
マンダウエ市	マンダウエ市国立高校
ラブラブ市	ブアヤ小学校



防災教育へのやる気を示す教員たち

防災教育の持続可能性のためのコアチームワークショップ

2016年4月14日及び15日、SEEDS Asia は、防災教育の持続可能性のため、コアチームへのワークショップを開催しました。このワークショップの目的は、プロジェクト終了まで1年を切った今、コアチーム一人ひとりがプロジェクトに対する共通のビジョンを持ち、そのビジョンを実現するためにはどのような実施計画を立て、実践していけばよいかをチーム全体で考え、自分たちが持続可能な防災教育の実現に導くための担い手であるという意識を高めてもらうことです。2日間のワークショップの最後にはコアチームを代表し、エミリアーノ・エルナー氏(教育省第7地方事務所所属)が改めて地域との連携による持続可能な防災教育の実現に向けた積極的な関わりを行っていくことを参加者らの前で表明しました。



コアチームワークショップの様子



防災教育推進校7都市の代表者らとのミーティングの様子

各防災教育推進校におけるキックオフミーティング

防災教育推進校選定後の2016年4月、各校の防災教育推進校(全7校)にて、防災教育実施に向けたキックオフミーティング開催しました。このミーティングには、各市の防災管理局担当、各地区教育事務所防災担当、学校長、学校防災担当、各学校で選定された10名の防災教育担当教員らが集まり、SEEDS Asia の団体概要やセブプロジェクトの概要、防災教育の重要性、各ステイクホルダーの役割等について説明し、防災教育に対する共通認識の形成を図りました。また同時に、教員らは防災教育に対する期待と意気込みを示してくれました。



ワークショップ後コアチームと共に

推進校における教員研修オリエンテーション

2016年4月20日～28日にかけて、SEEDS Asia セブプロジェクトチームは5月16日～20日に予定されている教員研修に先立って、そのオリエンテーションを各推進校7校で実施しました。このオリエンテーションでは事前に研修プログラムや内容を共有し、研修に対する心構えを高めることを目的としています。また、研修参加予定の教員らに対して、防災知識テスト、意欲テストを実施し、研修前の防災に関する基礎知識及び防災教育への取り組みに対する意欲について、客観的指標を用いて測りました。



教員前オリエンテーションで研修前知識テストを受ける教員たち



ネパール

【ジャパン・プラットフォーム】

学習支援キットの使用状況のモニタリング

1月まで燃料不足等により、事業地への訪問を控えていましたが、2月に学校訪問に関する調整を再開させ、3月、供与した学習支援キットの使用状況に関するモニタリングと応急教育に関するワークショップの内容のフォローアップのため、学校訪問を行いました。3月には、対象35校のうち、未だモニタリングが実施できていなかった残り18校を訪問しました。訪問した全ての学校で、ワークショップの内容を示した大型ポスターが、職員室か、もしくは教室に掲示され、ワークショップの内容を広く啓発していることが分かり、本事業の成果が確認できました。

本事業は、3月31日をもって予定していた活動を全て終え、終了致しました。本事業の実施に際して、ご支援・ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。



供与したキャロム（ネパールのボードゲーム）で遊ぶ生徒たち

【中央共同募金会・一般寄付】

村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクトの開始

2015年4月に発生したゴルカ地震から1年が経過しました。これまでの支援活動を通して、被災地であるシズリ郡では、過去にもあった地震の語り継ぎがされておらず、また、地震を想定した防災訓練も実施したことがなかったことが把握されました。そこで、2016年4月からは、現地団体のCDCCS (Center for Disaster and Climate Change Studies) とともに、郡内の3村を対象に、地震災害の教訓を明確にし、その災害教訓を継承するための防災訓練が実施できるよう、ワークショップを実施することになりました。

今後も引き続き、ネパールの地震被災者支援に応援くださいますよう、宜しくお願い致します。



地震から1年、被災校はまだ再建されず、仮設校舎での授業が続いている

本部からのお知らせ

新スタッフ紹介

本部事務所（狩野 仁未）

皆さま、はじめまして。4月からSEEDS Asiaの仲間入りをしました、狩野仁未と申します。

私は大学卒業後、中南米で10年、国際協力を携わってきました。隣の家は2 km 先という田舎から人口10万人以上の大都会まで、いろいろなところで活動しましたが、いつも役に立ちたいと行ったつもりが、本当に多くの人々に支えられて過ごしてきました。帰国後、日本の中間支援のNPOで勤務した後、再び、縁あって国際協力の世界に関われるようになったこと、とても嬉しく思っています。必要とする人たちのために、できることをコツコツと、そして楽しく！という気持ちでがんばっていきたくと思います。どうぞ、よろしくお祈りします。



バングラデシュ事務所（佐藤 美春）

はじめまして。SEEDS Asia バングラデシュ事業を担当しています、佐藤美春と申します。ダッカという世界有数のメガシティでコミュニティの防災力を高めべく、4月よりこちらに来ています。バングラデシュではもうすぐマンゴーの時期が始まります。

私は、中学生の頃に教科書で見たアフリカの飢餓の写真が衝撃的で忘れられず、世界で起こってる問題や国際協力というものに関心を持つようになりました。大学で国際協力を学んだあと、インドのデリー大学に進学し、都市スラムでフィールドワークをしながらインドや南アジア地域の社会問題について学びました。その後東京およびムンバイでの外資企業勤務を経て SEEDS Asia の仲間に入れていただきました。実は学生時代に初めて訪れたアジアの国がバングラデシュで、それ以来ある村の小学校を支援してきました。個人的なつながりのあるバングラデシュに今回プロジェクトに関わることになり、この国に何かの縁を感じています。NGO スタッフとして働くこと、また、コミュニティ防災という分野は私にとって初めてのチャレンジです。日本とバングラデシュ、互いに学びながら強いコミュニティ作りに貢献していきたいと思います。みなさま、どうぞよろしくお願い致します。



● Urgent Notice : Kumamoto Earthquake

● Tanba City

Japan Platform

Launching support activities for Kumamoto

On 14th and 16th April, 2016, big earthquakes whose seismic intensity by JMA was VII occurred in Kumamoto Prefecture. We would like to express our sincere sympathy to the victims of the earthquake.

SEEDS Asia conducted damage/needs assessment in Kumamoto from 16th to 21st May, and got the agreement with Department of Disaster Risk Management in Uki City and Social Welfare Council in the city to have support activities in the city where aid organizations hardly have their activities in spite of continuous aftershocks of seismic intensity more than IV. One month has passed since the earthquake occurred, and the environment surrounding the affected people changes every moment; Volunteers from the outside of the prefecture have been accepted, some evacuation centers were integrated, and schools reopened. From June, the volunteer center will be changed into the recovery support center by Uki Social Welfare Council so that various needs from affected people can be responded. Support for the management of the recovery support center by SEEDS Asia with know-how of community recovery and resources in Kesenuma will be conducted.

Temporary housing has been constructed from now. Long-term support will be needed in affected areas. Thank you for your understanding and cooperation to support activities of SEEDS Asia in Kumamoto.

[\[Please help us raise fund!\]](#)

Your contribution to Donation for Kumamoto Earthquake Emergency Support can be made via the following website. We are looking forward to receiving your warm support. Thank you!

<https://kessai.canpan.info/org/seedsasia/donation/101408/>



Damage in Minami-Aso. Many houses were collapsed at their first floor while landslides happened on a hillside

Joint Project with Tanba City for Community Development, CWS Japan (UMCOR)

The joint project with Tanba City for Community Development was launched

On 12th April 2016, Signing Ceremony of the Agreement on Joint Project with Tanba City for Community Development was held. This agreement was reached with the city on the promotion of participatory disaster risk reduction (DRR) education through school-community linkage.

The idea of this project was generated when a visit was made to Tanba City in a Study Visit to Japan for members of Cebu-Philippines Project in July 2015. The visit was to introduce the damage that Tanba City suffered in the heavy rain and landslide in 2014 and the activities towards recovery. After that visit, many meetings were held with Tanba City to discuss possibility of a joint project, which led to this project agreement.

This project aims to promote sustainable DRR education through school-community linkage in Tanba City in the future through building a promotion system and a pioneer model in affected area, and developing educational materials and system that help to expand the experience throughout the city. We hope to receive your kind support and cooperation in this project.



Handshake between the City Mayor, the corporations which joined this agreement and SEEDS Asia at the Signing Ceremony

The first liaison conference with appointed DRR schools

On 27th April 2016, Tanba City Board of Education, representatives from four (4) appointed DRR schools and SEEDS Asia gathered in the first conference for appointed DRR schools. DRR schools are the schools which were appointed by Tanba City this year to do research in and implement DRR education. Four schools, including two elementary schools and two junior high schools located in the areas that were affected by the heavy rain and landslide in 2014 were appointed as DRR schools. Liaison conference for appointed DRR schools is held for the schools to share and learn from each other's direction and achievements in research and practice.

In this first conference, project overview and future plan were discussed. It was learned that the linkage with community varied between schools, so it was determined that the next conference would be about appropriate cooperation system of each school with its local community.

Armanitola Government High School is located in the South of the city with about 1500 students. Students established their DRR committee called "Earth Club" two years ago with support from SEEDS Asia. They have continued their activities even after we left, recruiting new members and conducting activities such as evacuation drill. It was very encouraging to see those students who were highly motivated and proud of their initiative

 Bangladesh

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

Kick-off Workshop

On April 24th, 2016, SEEDS Asia organized a kick-off workshop for a project titled "Capacity building for community-based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh". Risk of urban disasters such as earthquake and downpour is increasing in Dhaka, one of the mega cities in Asia. Our counterpart for this project is the Dhaka North City Corporation and the project aims to increase the capacity of local communities to cope with natural disasters in City. City government officials, university, Fire service department, and NGOs attended the kick-off workshop and discussed the importance of community-based approach in coping with urban disasters. SEEDS Asia also shared our activities in other countries and some success stories of community-based DRR such as Kobe's Bokomi and Mumbai's ALM. The project was nicely kick-started with participation of various stakeholders.



Earth Club members

 The Great East Japan Earthquake

UMCOR • CWS Japan

A class in disaster risk reduction for parents and children in Hashikami Junior High School in Kesenuma City

On 16th April 2016, a class in disaster risk reduction (DRR) was held for parents and students of Hashikami Junior High School in Kesenuma City and SEEDS Asia served as a lecture.

The conduct of the class was quickly determined in March when the Committee for the Promotion of DRR Education in Hashikami Area appealed to schools to stimulate Parents Association (PTA) to take part in school-based DRR activities: "General meeting of PTA will take place in April, let's take this occasion".

Two days before the class, a huge earthquake occurred in Kumamoto city in Japan. On 16th, the day the class was conducted, everyone was talking about that earthquake as another big main shock occurred again in Kumamoto. "The importance of DRR classes was recalled, wasn't it?" - said the school principal when he was talking about the memories of the Great East Japan Earthquake and Tsunami in 2011. Moreover, the vice principal of the school from this year came from Kumamoto, so actually he must have felt rushed immediately, but he worked calmly and guided me to the hall.



Group photo at the kick-off workshop

Visit to Armanitola Government High School

On 27th April, SEEDS Asia visited Armanitola Government High School for the 2nd anniversary of students' DRR committee. We could also observe an evacuation drill which was conducted on that day.



Students were already lining up in the gym which was the venue. There were many familiar faces, such as the students who made DRR map in elementary school two years ago, a student who was in the same DRR camp with SEEDS staff, or a student who went with SEEDS staff to an observation trip to DRR camp in Saijo City, Ehime Prefecture.

It was right after the Kumamoto earthquake occurred. Everyone was serious. The PTA gathered around the students.

“Do you know about ESD (Education for Sustainable Development)?” - The lecture started with a lesson. Both students and parents could not answer. We understand that schools and the Board of Education considered how to convey this matter to the PTA as an important matter. Therefore, we showed the movie “ESD in Kesenuma-Innovation in DRR education” . We hoped that through watching this movie, PTA members would understand in what kind of environment children would think and learn about living.

Because the video used a lot of images of the audiences’ hometown and the people they knew, it drew joyful laughter from the audiences. It seemed that the PTA members could somehow feel something important in the images they saw of lively children in the surrounding area studying.

“Even a large tree will incline if it is blown by a wind every day, regardless of whether we can see the changes or not. What direction will we be inclined to when a big disaster occurs? We must create “a wind” that can help. Let’ s build a town where everybody can survive after disasters.” The lecture ended up with those words, and hopefully it will link to a new step in DRR for the surrounding area of Hashikami Junior High School.



SEEDS showed a movie in the lecture in Kashikami Junior High School

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) in Disaster Risk Areas

Project completion and announcement of debriefing session held in JICA Kansai

This project was successfully completed in the end of March. We would like to express our sincere appreciation to all the people who supported for this project. JICA Kansai arranged a debriefing session (in Japanese) as follows.

Date : 30th May (Mon) 18 : 30-20 : 00.

(Registration starts at 18 : 00)

Venue : Briefing Room, 2nd floor, JICA Kansai .

Registration can be made by sending the following information: ① Name ② Telephone number, ③ Email address by email to jicaksic-kusanone@jica.go.jp or over the telephone: 078-261-0384 (Matsuura, Shirai, Kumagai, Citizen Participation Division, JICA Kansai). Personal information will be used only for the contact related to this event.

No registration fee is required.



Group photo at the Final Workshop

USAID MCCDDM Project: Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management

The first meeting with technical advisory group (TAG) for Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management (MCCDDM) project

As a MCCDDM member, SEEDS Asia attended the first meeting with technical advisory group (TAG) for Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management (MCCDDM) project at Relief and Resettlement Department (RRD) office in Nay Pyi Taw on 8th March 2016.

The major agenda was to brief TAG about activities under the MCCDDM project. SEEDS Asia reported the activities that the organization had conducted, such as holding the workshop on Training-Research-Action, donating of 52 books related to disaster management and 232 recommended documents, attending consultation meeting on partnership with universities and technical institutions, providing scholarships to researchers from Yangon Technological University and Department of Geography of Dagon University. A member of the TAG group, the Pro-Rector of Yangon Technological University, made a positive comment on the activities related to Action-Research and emphasized the importance of the linkage between research and action as well as cooperation with related agencies in Myanmar.

(※ Consortium of MCCDDM : UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED etc. Technical support agencies in the consortium: UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA etc.

※ TAG (Technical Advisory Group) is formed from 17 organizations including universities and related government agencies.)



Discussion during the meeting at RRD

[The field survey of Coastal Community Resilience Index \(CCRI\) survey in Ayeyarwady Region completed](#)

Field surveys on CCRI were completed and analyzing process on their data was started in the beginning of April. Covering 26 townships in Ayeyarwady Region, the survey was conducted by the research group which consisted of a Ph. D student of Yangon Technological University, Ms. Ei Ei Khine, RRD personnel and local project coordinator of SEEDS Asia Myanmar Office. CCRI consists of survey and focal group discussion to gain the information at township level by interviewing and having discussion with government departments, fishermen, farmers and village community development committee etc. The research group is gaining findings of 125 items from 5 major dimensions including socio-economy, infrastructure, institution and governance, coastal zone management and natural environment.



In the meeting at RRD

[Consultation meeting with officials of Relief and Resettlement Department \(RRD\) in Nay Pye Taw](#)

A consultation meeting with officials of Relief and Resettlement Department was held at RRD in Nay Pyi Taw on 7th April. The main agenda was to review the project activities. SEEDS Asia and RRD agreed that activities of SEEDS would remain the same and reconfirmed the importance of information sharing with RRD about our activities such as reports on CCRI/CDRI research surveys in Ayeyarwady Region.

- ※ CCRI: Coastal Community Resilience Index
- ※ CDRI: Climate Disaster Resilience Index



Conducting CCRI survey in Patheingyi Township

[Donation of books on disaster risk reduction to Geography Department of Dagon University](#)

On 31st March, 64 books on disaster risk reduction were donated by the Chairman of the Board of SEEDS Asia, Dr. Rajib Shaw to Dagon University through Myanmar office. The books were handed over to the Head of Geography Department, Professor Khin Khin Wai in order to mainly support research team of CDRI which consisted of professors and Master's students from Geography Department to effectively understand CDRI survey.

In cooperation with SEEDS, the research team will start field survey of CDRI in May 2016.



Group photo with Professor Khin Khin Wai and Geography Department



India

Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi

Media session

A media session was held at Banaras Hindu University in the morning of 16th April. Local journalists from seven (7) news companies attended this session.

The overview and the progress of the project were presented to the media while the plan of “publishing students’ articles in DRR in newspapers” was proposed and explained.

In this activity, students will create articles or pictures with the contents related to disaster risk reduction, then an excellent work will be selected and published in newspapers regularly and continuously. This aims to promote the awareness of DRR of children in particular and all citizens in Varanasi in general through newspapers.

All journalists were interested in this plan and the cooperation for the project was agreed among media groups.



At media session

Training of Trainers

Training of Trainers was held at Banaras Hindu University on 16th and 17th of April. This training is to train leaders so that they can conduct DRR/Climate Change (CC) education in each school and DRR activities in each community. Therefore, core members in DRR/CC education and activities such as representative teachers from Climate Schools (CS) and surrounding schools and also representatives of community groups attended this training.

On the first day of the training, SEEDS specialists and Professors of Banaras Hindu University gave presentation on basic knowledge of disasters, disaster condition in Varanasi City and DRR education in Asia while on the second day, participants discussed the DRR activities that their schools and communities were implementing. Moreover, the participants created and shared to each other their concrete activity plans and targets for the next one or three years which might help to strengthen their schools and communities’ resilience to disasters.

This training provided a good opportunity for participants to think seriously and discuss how to build their own schools and communities’ capacity for DRR.



Teachers were making activity plans



Philippines (Cebu)

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) through Cooperation between Local Communities and Education Sector in Cebu Province

Selection of Promotion Schools

After the stage of building capacity and implementing DRR education in model schools, SEEDS Asia is in the next stage of our project which is to select Promotion Schools for DRR Education.

On 2nd March 2016, SEEDS Asia organized a meeting with Promotion Schools for DRR Education roll-out at DepEd Region VII Office. The meeting was attended by the Regional Director of Region VII, staff from Local Disaster Risk Reduction Management Office (DRRMOs) and School Division Superintendents (SDS) from DepEd' s seven (7) division offices. The purpose of this meeting is to share common understanding and perception of SEEDS Asia' s DRR activities and to obtain cooperation from all stakeholder through presentations on the overview of Cebu Project, the importance of DRR education, the role required for each stakeholder in DRR and also criteria for selecting Promotion Schools. In April, Promotion Schools were selected in seven (7) divisions.



Teachers showed their motivation to implement DRR education

Name of Division	Name of Promotion School
Carcar City	Carcar Central Elementary School
Cebu City	Cebu City National Elementary School
Talisay City	Tanke Elementary School
Toledo City	Taravela Elementary School
Naga City	Balirong Elementary School
Mandaue City	Mandaue National Comprehensive High School
Lapu-Lapu City	Buaya Elementary School

Core Team Workshop for Sustainability of DRR Education

On 14th-15th April 2016, SEEDS Asia organized a workshop for Core Team to maintain sustainable DRR Education in cooperation with local community. As the project is going to end in one year, this workshop aims to heighten the Core Team' s awareness of their own role as the leaders in the implementation of sustainable DRR education including building an Action Plan together based on their common vision about the project, and thinking how to put the plan into practice. In the end of Workshop, Dr Emiliano Elnar (from DepEd RO7) declared their commitment to participating actively in the implementation of sustainable DRR Education in cooperation with local community.



At the meeting with Promotion Schools



Core Team Workshop

Kick-off Meeting with DRR Education Promotion Schools

In April 2016, First Meetings were held in selected Promotion Schools. Each meeting gathered Local DRR Management Office (DRRMO), DepEd Division DRR management focal person, school' s head teacher, DRR management focal person and ten (10) teachers in charge of DRR education. The purpose of these meetings is also to share common understanding and perception of SEEDS Asia' s DRR activities and to obtain cooperation from all stakeholder through presentations on the overview of Cebu Project, the importance of DRR education and the role required for each stakeholder in DRR. At the same time, the teachers showed us their understanding and motivation to implement DRR Education Project.



Group photo with Core Team Members after workshop

Pre-Training Meeting

On 20th-28th April 2016, Pre-Training Meetings were held in seven (7) Promotion Schools as orientation session to prepare for the training for teachers which is scheduled on 16th-20th May. These meetings aimed to increase teachers' readiness for training through sharing the training's program and contents. Moreover, Pre-Tests on basic knowledge of DRR and motivation were conducted to the teachers who would participate in the training in order to measure their basic DRR knowledge and motivation by objective indicators.



Teachers received DRR knowledge test at pre-training orientation



Students playing with distributed Carrom (Nepal's board game)

Central Community Chest of Japan, Donation from Japanese People

Project on Capacity Building of Disaster Risk Management for Village Development Committees was launched

It has been a year since the Gorkha Earthquake occurred in April 2015. Through the activities implemented in Sindhuli district- an affected area up to now, it was learned that memories of the earthquakes in the past had not been handed down, and evacuation drill had never been conducted as well. Therefore, it was determined that from April 2016, workshops would be held in cooperation with CDCCS (Center for Disaster and Climate Change Studies) - a Nepalese organization in order to clarify lessons about earthquakes and implement the evacuation drills which aim to convey lessons learned after disasters.

From now on, we hope to receive your continuous support in our activities for affected people in Nepal Earthquake.



The Japan Platform

Monitoring of educational kits using condition

Visits to project site have been refrained due to reasons such as fuel shortage. However, in February, arrangements for school visits were restarted and in March, school visits were conducted to monitor using condition of educational kits and to follow up of the content of workshop. In March, visits were conducted to 18 schools which were among 35 targeted schools but had not been monitored. In all the visited schools, the achievement of this project could be confirmed as the big posters that showed the workshop were displayed in either staff rooms or classrooms and the workshop content was widely aware of.

This project ended all planned activities and completed on 31st March. We would like to express our deep gratitude to all kind support and cooperation we received during the implementation of this project.



One year after Nepal Earthquake, this affected school has not been reconstructed yet. Lessons are being conducted in temporary learning centers (TLCs)

Announcements from SEEDS Asia

New staff member

Kobe Headquarters Office (Hitomi Kano)

Hello everyone, I am Hitomi Kano. I started working in SEEDS Asia from this April.

I worked in jobs related to international cooperation in South/Central American countries for nearly 10 years after graduating from college. Due to my work, I lived in various places, from the countryside where even the nearest neighbor lived 2 kilometers apart, to the metropolitan where the population was more than 100,000 people...Even though I always intended to be the one who could help, I think it's me myself who was supported by many local people. After I returned to Japan, I worked for an NPO which supported activities of NPOs. I feel so happy to work for overseas communities again, and I hope I will enjoy my work and work hard to make the best for people in need.



Bangladesh Office (Miharu Sato)

Greetings from Bangladesh! My name is Miharu Sato and I joined SEEDS Asia in April as a project officer for the project in Bangladesh. I'm living in Dhaka, one of the mega-cities in Asia, to work on community-based DRR in cooperation with the city. I'm excited that mango season is about to start in Bangladesh.

It was when I was a junior high school student that I saw a photo of a starving child on my textbook which was very shocking for me at that time and I started thinking of global issues. I studied international cooperation at a university in Japan and went on to a graduate program at the University of Delhi, India. I had very meaningful time in Delhi to learn social issues in India and South Asia region while carrying out fieldwork in the slums of the city. After working for an American company at its Tokyo and Mumbai office, I got this opportunity to work for SEEDS Asia.

Bangladesh was actually the first Asian country that I visited in my life. Since then I, with my friends, have supported a non-formal school in a village. So I've been connected to the country and I'm glad that I came back this time as a project officer. It's my new challenge to work as a NGO staff in the field of disaster risk reduction. I'm very excited to work with the city and communities. I also look forward to sharing my experiences with you. Thank you.

